

修 士 論 文 の 和 文 要 旨

研究科・専攻	大学院 電気通信学研究科 人間コミュニケーション学専攻 博士前期課程		
氏 名	竹内優香	学籍番号	0636010
論文題目	WWW 学習環境における学習行動と思考スタイルに基づく 学習者の理解度の予想		
要 旨			
<p>WWW 学習環境は、学習者自身が教材の参照順や参照する時間を独自に決め、主体的に学習に取り組むことができるという利点から、近年、自学自習形式の学習場面で多く活用されている。</p> <p>しかし、個別学習においては、学習中に生じた疑問や誤理解を自力で解決できずに学習が停滞してしまう、学習の行き詰まりが発生することがあり、学習過程のなかで行う支援が不可欠である。また、このような環境において、その利点をいかすためには複数の学習者に対して一定の時間単位での支援や、一様の内容の支援を行うことは適切でなく、学習者の自主的な学習行動を妨げずに、個別学習中におこる学習の行き詰まりを発見して支援する必要性は高い。</p> <p>そのため本研究室では、行き詰まり発見の手がかりとなる学習者の理解度を把握するための手段として、教材参照履歴を利用し、学習者個々の学習行動を分析して、コンピュータによる個別支援を確立することを目指してきた。しかし、これまでに提案された学習行動の分析に基づいた行き詰まり発見の手法では、行き詰まりの誤認・見落としがあり、分析精度の向上が課題となっている。</p> <p>そこで本研究では、WWW 学習環境での個別学習において、学習者の学習行動と思考スタイルの情報を用いて、学習に行き詰まった可能性のある支援対象者を発見することを目的とし、学習行動、思考スタイルと理解度の関連を調べ、学習者の理解度を予想する手法を提案する。</p> <p>手法の提案には、学習段階を用い、学習の進行を考慮して行なった学習行動分析の結果得た理解度と学習行動の関連と、理解度と関連があると思われる思考スタイルの情報とをあわせて用いた。</p> <p>本手法を適用した結果、学習期間中の比較的早い段階で学習者の理解度を予想し、支援対象者の6割程度を発見することができた。また、2年間分のデータを事例として用いた手法の実施と結果の比較からは、学習段階を用いた分析を行なうこと、分析を行なう際には学習者の課題参照行動に注目した分析を行なうことが、理解度の予想に有効であることがわかった。</p>			